

定例記者会見資料  
令和2年11月4日  
総務部秘書課

## 令和2年『田辺市文化賞』の決定について

田辺市では、昭和45年に創設した「田辺市文化賞」の制度を継承し、毎年、この時期に市の文化（学術、芸術、体育、生活文化等）の発展に貢献された方に本賞を贈り、その功績を称えております。

創設から51回目を迎えた本年は、長年にわたり合気道に身を捧げ、植芝盛平翁の精神を今に伝えるとともに、その普及と指導に心血を傾注されるなど、当地と縁深い合気道の発展に寄与された**五味田聖二氏**と、主に明治・大正・昭和初期の当地方に関する史料の収集や研究に傾注し、それらを元にした復刻版や郷土図書の刊行に尽瘁されるなど、地方文化の発展に寄与された**多屋朋三氏**のお二方に本賞をお贈りすることといたしました。

なお、お二方の住所、贈呈式の日時等につきましては下記のとおりです。

### 記

#### 【受賞者】

ごみた せいじ  
**五味田 聖二氏** (80歳) [合気道]  
(田辺市稲成町)

たや ともぞう  
**多屋 朋三氏** (75歳) [地方史研究]  
(田辺市下屋敷町)

※略歴等については別紙のとおりです。

#### 【贈呈式】

日時：令和2年11月26日（木）午前10時から  
場所：田辺市役所 3階 第1会議室



ご み た せいじ  
五味田 聖二 氏

生年月日 昭和 15 年 11 月 9 日生

住 所 田辺市稲成町

昭和 15 年、西牟婁郡田辺町（現田辺市）に生まれる。

氏と合気道のかかわりは、昭和 28 年（当時 13 歳）にまで遡る。警察官の親戚から「変わった技をやる人がいるから、見に行こう」と田辺署の道場を訪ね、そこで帰郷していた植芝盛平翁が、真剣に向かってくる警察官を軽々と投げ飛ばしていたその光景に衝撃を受け、その後、親と親戚の勧めもあり入門する。当時の規定で道場生は高校 1 年生以上であったが、特例で中学 1 年生で門弟となった。

以来、現在に至るまでの 65 年以上の長きにわたり、合気道に人生を捧げてきた。

合気道は、植芝盛平翁が日本の伝統武術の奥義を究め、さらに厳しい精神的修行を経て創始した現代武道だが、相手といたずらに強弱を競わず、また、他人と優劣を競うことをしないため、試合や競技を行わない。このような熊野の世界観にも相通じる合気道の精神に氏はたちまち引き込まれ、「大先生<sup>おおせんせい</sup>」と呼ばれる盛平翁のもとで日々鍛錬を積み重ねた結果、昭和 40 年（当時 25 歳）の時に合気会五段位を取得。大先生から、高山寺にある田辺道場長に任命され、合気道の普及、指導に全力を傾ける。

昭和 56 年には、稲成町に百畳敷きの大道場「合気道田辺道場（稲成道場）」を開設し、以来、現在に至るまで道場長として多数の門下生を指導するとともに、地域内の道場にも出向き、合気道の普及に励んでいる。なお、田辺道場は稲成道場以外に、高山寺道場、扇ヶ浜武道館道場、白浜道場、日高武道館道場がある。

その他、和歌山県合気道連盟の要職（平成 12 年から副理事長、平成 24 年からは理事長）を務めるとともに、平成 21 年から植芝盛平翁顕彰会理事長、平成 24 年からは全日本合気道連盟理事にも就任し、植芝盛平翁を顕彰する「合気道国際奉納演武」の開催に尽力する。以来、関係者・関係団体と共に同演武を毎年開催し、世界 20 カ国の合気道家が参加する大会へと成長させるなど、国内外における合気道競技の普及及び発展にも大きく貢献している。

また、道場や連盟の運営に多忙な中、自身の鍛錬を怠ることなく、平成 18 年に八段位を取得。これは東京都新宿区にある合気道本部道場でも八段位の現役指導者は僅か 8 名しかいない資格となる。

令和元年 11 月に開催された「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」では、紀南文化会館を会場に合気道が初開催となり、公益財団法人合気会の協力のもと、田辺道場をはじめ全国から約 250 名が演武を披露する交流大会が実施され、氏は公益財団法人合気会や関係機関・団体との調整のほか、交流大会で監督的な役割を務め、大会を成功に導いた。

今や数少ない大先生の直弟子として、小学生から高齢者まで幅広い世代に合気道とその精神を丁寧に指導するとともに、武道指導充実に係る地域外部指導者として、田辺市で合気道を授業に取り入れている中学校 6 校のうち 5 校において、保健体育科教員と連携して指導を行うなど、合気道と共に人としてのさらなる高みを志すその姿は多くの人々から信望を集め、合気道の普及・伝道師としてのその功績は多大である。

#### (学 歴)

昭和 34 年 3 月 和歌山県立田辺商業高等学校（現神島高等学校）卒業

#### (職 歴)

昭和 45 年 五味田カイロプラクティック療術所

昭和 28 年 合気会 入門

昭和 40 年 合気会五段位取得、高山寺道場を借りた田辺道場で道場長として指導を開始

昭和 56 年 稲成町に「合気道田辺道場（稲成道場）」を開設、道場長となる

平成 18 年 合気会八段位取得

#### (役職等)

平成 12 年 和歌山県合気道連盟 副理事長（平成 24 年まで）

平成 14 年 田辺市体育連盟 副会長（平成 21 年まで）

平成 21 年～ 植芝盛平翁顕彰会 理事長

平成 24 年 和歌山県合気道連盟 理事長（令和元年 3 月まで）

平成 24 年～ 全日本合気道連盟 理事

令和元年 4 月～ 和歌山県合気道連盟 副会長

#### (受賞歴)

平成 31 年 2 月 第 57 回和歌山県スポーツ賞 功労賞

令和 2 年 10 月 日本武道協議会 武道功労賞



た や ともぞう  
多屋 朋三 氏

生年月日 昭和 20 年 4 月 17 日生

住 所 田辺市下屋敷町

昭和 20 年、田辺市に生まれる。氏は、あおい書店の代表取締役として、一般的な書籍・雑誌等を販売する傍ら、主に明治・大正・昭和初期の郷土に関する史料の収集や研究、そしてそれらを元にした復刻版や郷土図書の刊行を長年続けてきた。

最新の刊行図書は、令和 2 年 6 月の『古の田辺・熊野古道の風景』（熊野歴史懇話会 // 企画 久保卓哉 // 解説 橋本観吉 // 監修 多屋朋三 // 彩色）であるが、過去の記録を紐解くと、これまで実に 40 年以上にわたり、営利を度外視して復刻版や郷土図書の刊行を続けられてきており、地方史研究に対する熱意とその実績は称賛に値する。

その代表例として、平成 29 年 1 月に発行された『日露戦争を伝える牟婁新報号外』（熊野歴史懇話会 // 編）が挙げられよう。この史料は、西牟婁郡田辺町（現田辺市）で創刊された地方新聞「牟婁新報」が発行した日露戦争に関する「号外」を復刻したもので、原本の総数 185 部に及ぶ貴重な一括史料である。「牟婁新報」については、社長・主筆である毛利柴庵や記者として在職した荒畑寒村や菅野スガ等の論説のほか、南方熊楠や大石誠之助なども有力な投稿者の一人として論陣を張るなど、その歴史的役割や時代背景、関係する人物の生きざまなど、その概要や歴史的価値を改めてここでは詳述しないが、不二出版から出された『牟婁新報復刻版』には、この「号外」が収録されておらず、「牟婁新報」や同時代を研究する関係者から高い評価を受けている。

また、この「牟婁新報」号外は、偶然、朋三氏が祖母の百回忌を迎えて持ち物を整理している際に長持の中から見つけたもので、その後、叔母から朋三氏に譲られたものである。原本となるこれらの史料は、その一枚一枚を長い紙に糊でつなぎ合わせた巻物の形で保存されており、約 40m にもなる長さであったが、少し触れるだけで破れるほど脆くなっていたことから、牟婁新報研究者の池田千尋氏（※第 49 回田辺市文化賞受賞者）の助言により、田辺市立図書館に寄贈して保存が図られることとなった。この時に氏は、<sup>しかい</sup>斯界に貢献するためにも号外 185 枚を一冊の本として出版すべきと決断したといい、今でも、その貴重な史料の発見と保存に対する行動

に賛嘆の声が寄せられている。

地域の歴史や文化を伝える資料の中には、時の流れの中で忘れ去られたまま、あるいはその存在すら知られることもなく、私たちの前から消えていくものも少なくないが、氏は、当地方の歴史や記録を丁寧に掘り起こし、復刻資料として世に送り出してこられた。これまでの出版物が物語るように、氏の努力の積み重ねにより貴重な資料の保存が図られ、そして広く市民にその記録を目にすることを可能にしたその労力と熱意、功績の大きさは誠に多大である。

(学 歴)

昭和 39 年 3 月 和歌山県立田辺商業高等学校（現神島高等学校）卒業

(職 歴)

昭和 48 年 有限会社あおい書店 代表取締役

平成 20 年～ 熊野歴史懇話会を運営

(主な出版物 [※あおい書店として])

- ・ 『古の田辺・熊野古道の風景』  
2020/06 熊野歴史懇話会 // 企画 久保卓哉 // 解説 橋本観吉 // 監修 多屋朋三 // 彩色
  - ・ 『南部～紀伊名所図会他～』  
2019/12 山本 賢 // 監修 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『紀州における水産に関する伝承・ことわざ・ことば 紀州漁民の伝承と言葉図書』  
2019/09 木下虎一郎 // 著 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『御三家方御附複製版 文久武鑑図書』  
2018/08 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『紀州藩郷組一札 雛形と解説図書』  
2018/ 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『日露戦争を伝える牟婁新報号外』  
2017/01 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『熊野をめぐる文人たち』  
2011/07 熊野歴史懇話会 // 編
  - ・ 『日高郡西牟婁郡における樹木の方言』  
1999/ 富久 一 // 著者
  - ・ 『田辺方言訛語便覧 誠の根ざし 第 90 号付録』  
1984/ 浜本慶太郎 // 編
  - ・ 『紫の花天井に 南方熊楠物語』  
1982/ 楠本定一 // 著
  - ・ 『田辺 ふるさと再見』  
1980/ 田辺刊行会 // 編
- など多数

## 受賞者コメント

五味田 聖 二

今回の田辺市文化賞の連絡をいただいた時、他に素晴らしい業績をお持ちの方々がいる中、私で良いのかと戸惑いました。

昭和 28 年に開祖植芝盛平翁先生にご指導いただいてから 67 年、昨日のごとく思い出されます。

海外から年間 400 人以上の道友たちがお墓参りに来られて、田辺道場で稽古して帰られます。田辺市では、中学校の体育授業において武道必修化されたことに伴い、合気道の導入に取り組んでおり、現在 6 校の中学校で実施しております。

本年、植芝盛平記念館が併設された武道館が完成しました。この武道館を拠点として、より多くの方に翁先生のことを知っていただければ幸いです。

最後に、今回の受賞を一層の励みとし、合気道の発展の為に頑張りたいと思います。ありがとうございました。

## 受賞者コメント

多屋 朋三

この度、田辺市文化賞受賞のご連絡をいただき、有難くお受けさせていただくことといたしました。

書店を経営して70年になり、関連の出版に携わって45年の間、郷土資料の出版や復刻を行うなかで、先輩や先生方、友人に支えられてやってこられましたことを幸せに思っております。

これからも皆様のお力添えのもとで、資料の収集と出版を微力ながら続けてまいりたいと思います。

最後に、この賞をいただく事になりましたことを深く感謝する次第です。ありがとうございました。